

UDONの国さめき こしとねばりのある子に育てよう。 合言葉は“おいでませ 観てな、聞いてな、な～るほど”



歩み寄り、共生

小本中PTA 三浦 宏一

早朝に岩手を発ち、瀬戸大橋を渡ったのは夕日が沈みかける時刻であった。第一日目「国際理解」分科会に参加。世界はたくさん分かれ、生活習慣は違うが、地球はひとつの国、お互いに理解し「偏見を持たずに歩み寄り、共生していく」ということが大事」との言葉が心に残った。二日目の全体会はPTAの歌でスタート。すばらしい歌



8月23日24日の両日、香川県で開催された日PTA全国研究大会に本県から27名が参加。各地の活動報告や意見交換に関わり、PTA活動の喜びや悩み、今後のあり方について深めうことができた。



学校・家庭・地域の和

柏台小PTA 藤原 瀬津雄

詞であり、PTA行事にはぜひ導入したいと感じた。記念講演は脚本家内館牧子氏による「角界の新弟子における規範意識」。先生が子供に「おはよう」と声をかけたら、子供は「おはようございます」と応えるのが常識と受け止めてはいるものの、親と子、教師と生徒

第5分科会「地域連携」分科会に参加。コミュニティ・スクールの視点から学校・家庭・地域におけるPTAの取り組みを学んだ。基調講演は習志野市秋津コミュニティ顧問の岸祐司氏。「学校を拠点にした地域づくり」では「PTAと地域」という考え方はなく、「PTCA」すなわち地域を含んだ考え方が必要との論旨、次に三木町立田中小PTAの事業の取り組みを聞いた。子供たちを取り巻く環境を考えた場合、地域の教育力を生かしていくことが大切であり、PTAは地域と学校の両方に重なる

年配者と若年者のように人にはそれぞれ立場の違いがあり、しかるべき礼儀がある。誰でも赤い血が流れているから平等という考えでお互いに「おはよう」で済ませているのではないか。相手、場にふさわしい敬語を耳にする機会が少なくなりつつある世相に対する警鐘となる講話で、相撲界の話題を切り口にしての規範意識の見直しを示唆する講話に大いに共鳴できた。

るポジションにある。コミュニティ・スクールは有効なツールとして利用できる側面があり、特に地域での繋がりが希薄な都市部や統廃合で校区が新たになった地域では、学校を中心として地域が繋がることができると意味は大きいと感じた。地域における学校の役割（学校における地域の役割だけでなく）を考えながら学校・家庭・地域が共に育っている活動のカギをPTAは握っていること、学校活動のみならず地域社会への積極的な参画が求められることを感じさせられた。



子どもと共に育ちあい

八重畑小PTA 佐藤 現

分科会で出会った「地域の子どもから老人までが学校を拠点に町おこし」の実践紹介ビデオに忘れられない光景がありました。コミュニティ活動に楽しそうに参加している女性がいました。その方は子どもが無い方で、「子どもを持ってなかった者にとってPTAは脅威な存在、圧力団体であった。」との紹介を聞いたことです。私自身は地域の子どもと関わるPTA活動が当たり前と思ってきましたが、このように思っている人がいる現実には気がされました。今後はPTA会員以外にも多数参加できる活動もあると思っています。

基礎学力の向上、充実に学校と家庭が力を合わせる時です。

岩手県PTA連合会は10月27日、岩手県教育委員会と岩手の子どもたちの一層の「学力の向上」を巡って意見交換を行った。子どもたち一人ひとりに豊かな学力を身につけさせることは健やかな身体、豊かな心の育成などと共に家庭、保護者として地域の願い、すなわちPTAの願いである。PTAとして各家庭で担うべき家庭学習時間の確保や状態見直しなどを学校、先生方と連携、検証して見る必要がある。各市町村で教育委員会とも連携を深めていくことは当然である。様々な個性が切磋琢磨し学びあう学級を単位とした教育の持つ特色を効果あらしめるため、子育ての基本である「家庭で育て、学校で伸ばし、地域社会で鍛える」連携・分担が機能しているか、PTAの立場からの検証が必要である。子どもたちの幸せな将来を切り開くため、基礎的基本的な学力を身につけられる学びを創り出せるよう「家庭学習」や「生活の基本」について学校（先生方）と連携した対応を進める上で、PTAの果たす役割には大きなものがある。